

恭奉賀賀新年候

陳六例ノ研究會ト占領策

ニ關シテハ武足不肖ナカウ錦織

子爵ヲ即テ急ラズ計画仕リ

居リ候也 新年早マニテ何シ

モ非常ノ多忙有之為ニ未カ

大磯へ誘引スル都合ニ井リ

兼居リ申候

寅日即ニ廿九日ノ夜錦織子

爵即ニ於テ藩閣ノ與當ニ

及對スル諸子爵三四名

集合ノ機會アリシ何是非共

大養君ノ出席ヲ請ヒテ欲

シテ武足種々心配仕リ候得共

大養君ノ病氣ノ為ニ遂ニ出

席ニ相成ラズ大遺憾ノ感

シタル也才ニ御座候

也武足錦織子爵ト謀リテ七

名ノ諸子爵同席ニテ閣下ノ

御座語ヲ願ヒ奉リタラト存ジ居

リ候也尚諸子ノ挙動等

ヲ熟察スルニ同ク藩閣ノ與

當ニ及對スル志ニ有リカウ

多ク其趣ヲ異ニスルヲ認メラレ

候間 最初ヨリ同席ニテ

閣下御延見アルハ互ニ競争

心ヲ惹起シ其結果タルヤ

統一ヲ欠キ事端ヲ破アルノ

由ニテ

初會日



心ヲ惹起シ其ノ結果タルヤ
統一ヲ欠キ事端ヲ破ブル
恐レテキニアラズ候間初會
外ケハ一人ツリ別々御面話
ヲ願ヒ奉リ候様致度ト存
ビ座リ申候

右ノ通り相運ビ候テ
閣下ノ御面働ヲ察シ奉リ候
得共各自一人毎ニ

閣下ヨリ暖知ナル握手ノ
禮ヲ御與ヘ下候得者
非常ノ効果ヲ錯フベキ見込
ミ付御延見ヲ願ヒ奉リ候

節々可成的ノ御懇話ヲ
御聞カセ可御下矣々々奉
禱候

御承知アラセウシ候通り優長
ナル長袖議員ノ關ス事件
ニテ何分ニモ短刀直入ト

申入都合ニテ井リ業候事
情モ有之御面働アラセウ
ベク候得共武足ハ及ハスナカウ

苦心集思錦織子爵
ヲ助ケテ好萬銳ヲ盡シ座
リ候間何卒左様御合

ニ置キ可御下此致奉願
置候
恐惶謹白

明治三十有二年一月四日
末岡武足
再奉

大隈伯爵閣下
執事御中

二神別紙錦織子爵書面ノ
通り一兩日中先ツ子爵

明治三十有二年一月四日

末岡武足



再啓

大隈伯爵閣下

執事御中

三神別紙錦織子爵書面ノ
通り一兩日中ニ先ツ子爵
山井兼文氏ヲ誘引シテ
大磯ヘ考上セラルベク候

山井子爵ハ本年三十二歳
ノ壯年ナレドモ學識アリ思慮
アル人ニ御座候殊ニ研究會
員中壯年部議員ニテハ
陰然勢力アルヲ以テ先ヅ
此人ヲ勧誘スルヲ得ルハ
將來ノ計畫上大ニ利益
アリ矣ト認メラレ申候

然ニ山井子爵ハ平生
閣下ノ英風ヲ欽慕シ居
ルニモ拘ラズ萬事慎重
ノ態度ヲ執ル一人ナルヲ
以テ一應 閣下ニ御面詔
ト上テ何事モ相決シ申度
トノ趣キニ付 御延見ノ際
其テ御旨ヲ以テ可成的

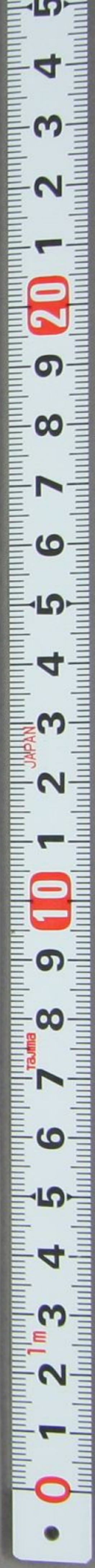
獎勵 將來ノ御庇護

ノ意味ヲ御旨ミアラセラシ
御接遇被成下候様吳々々
奉禱置申候敬具

山井子爵ハ陽明學風ニシテ
詩歌ニ長じ殊ニ勤王ノ志
厚キ人ニ御座候

大隈伯爵閣下

秘密奉煩御親展



系咸



末岡武足

再拜



今朝之新多秋

陸田山并八系了屋

多山馬トトト主ト馬山并

之能元以系波ト水ト

系ト了ト有 尚貴元

中序之失方山并之

能元少年元ト尚元

明之元ト之

百之三

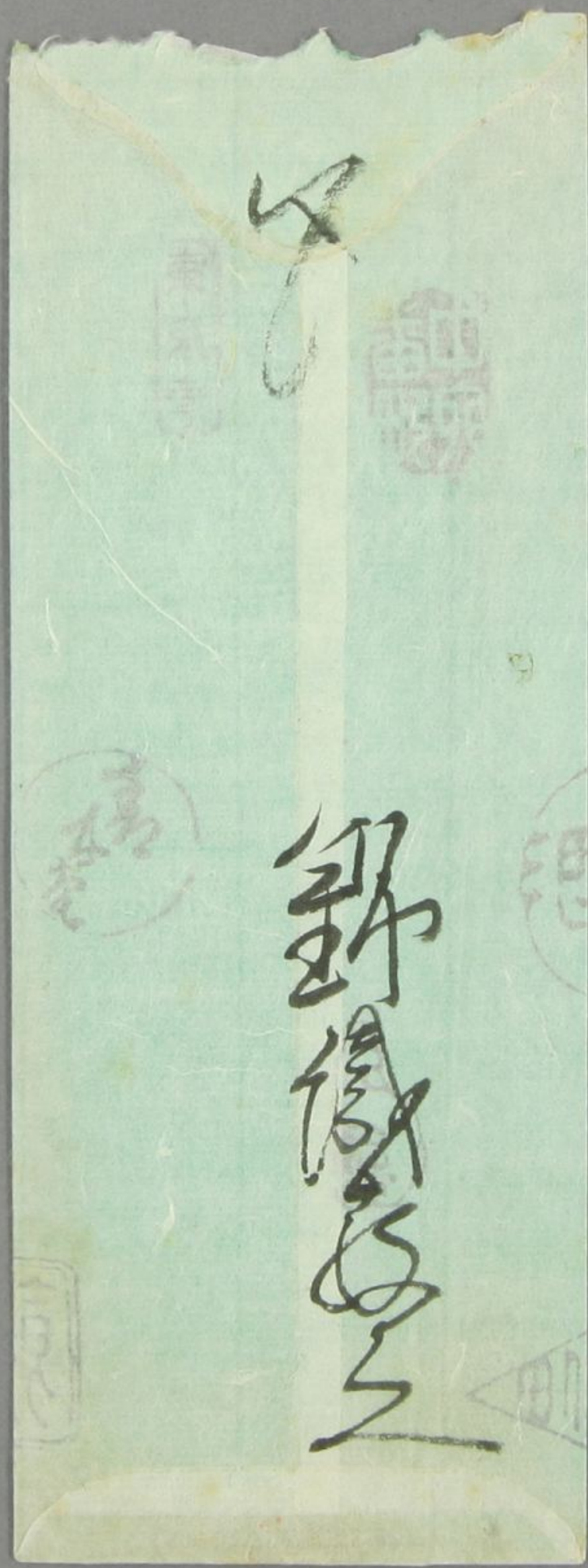
教林

未周君



青山南所左下月
松七郎の宛
本局宛
三郵便局

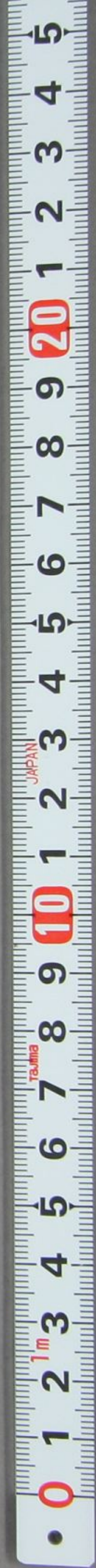
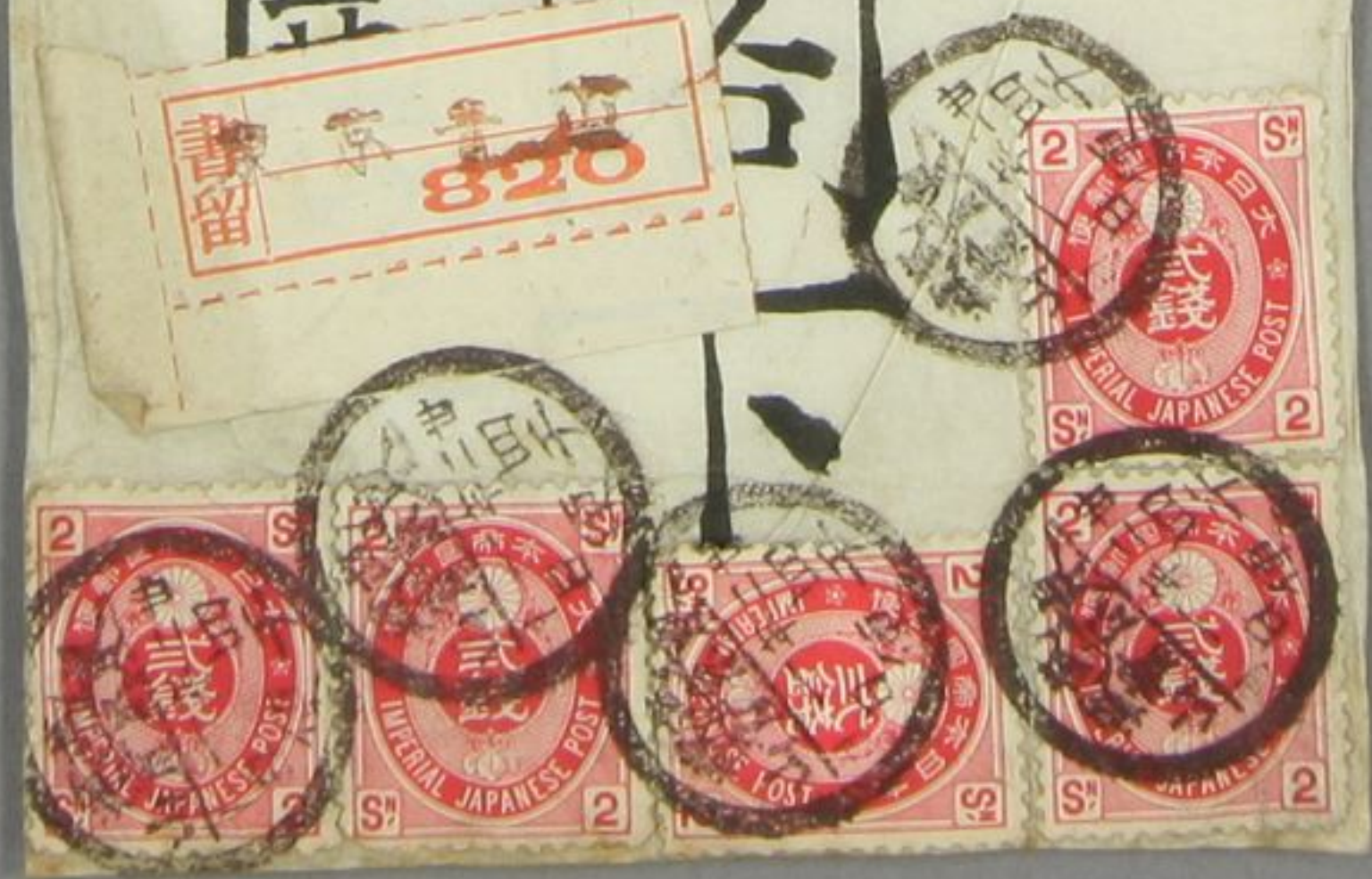




4

錦
信
好
之

神奈川縣大磯
大隈伯
書留御親
於



咸系

未岡

未岡

東京赤坂區青山南町
一丁目三十七番地

未岡

末岡武足

未岡

未岡